

令和2年度 学校評価(前期)による検証・改善の取組

綾川町立綾南中学校

【評価基準： 4 達成 3 ある程度達成 2 あまり達成できていない 1 できていない】

重点事項		自己評価	考 察 (数値は、肯定的に回答した者の割合)	改 善 策
学びにときめかせる授業づくり	人のことを大切にしておく力を高めることを基盤に、『学びの作法』の定着を目指した確固たる取組を展開し、学びに向かう構えを醸成する。	3.3	これまでの「学習五則」を『学びの作法』に整理統合して教室掲示し、より意識化が図られるよう環境を整えた。授業終始のあいさつは、感染防止のため全員での発声は控えてきた。 生徒アンケートでの「1分前着席ができています」は98%(前年同期比+3%)、「先生や友達の話をよく聞いている」は96%となっており、成果の一端が見て取れる。	⇒『学びの作法』は、学校生活を充実させる基盤となる力と価値づけ、確固たる取組となるよう継続する。
	『ときめく学習課題→課題追究・探究活動を駆動させる学び合い→学びの手応えを可視化する振り返り』による学習指導を創造し、より深い学びへと導く。	2.6	課題追究・探究活動を駆動させる学び合いについては、感染防止のためペアやグループでの活動は一定の制限を加えてきた。 生徒による授業評価での「学習課題は興味をもてるように工夫されている」は97%、「振り返る視点や内容が示されている」は96%と高い水準を維持しており、授業づくりの押さえ所として定着しつつある。	⇒学び合いの基盤として、学習(学級)集団全体での組織化・活性化を図る指導を意識する。 ⇒ペアやグループでの活動については、生徒からの要望もあり、社会情勢を踏まえながら徐々に緩和していく。
	小テスト等を継続的に行うなど、繰り返しによる定着を図り、生徒の「分かった」「できた」実感積み重ねさせることで、自分に対する自信を高めさせる。	2.9	教育課程の遅れを取り戻すため、教科によっては、小テスト等の取組時間の確保が難しい現実があった。 こうした中ではあったが、生徒アンケートでの「学習内容が分かったという実感がある」は94%(前年同期比+1%)、「難しい課題にもあきらめずに粘り強く取り組んでいる」は85%(前年同期比+4%)と向上しており、成果の一端が見て取れる。	⇒教育課程の進捗を踏まえて、各教科で工夫しながら学習内容の確かな定着を図るための取組を進める。
やすらぎのにじむ集団づくり	さめきの教員かかわりの三訓『共感的に受け止め、チームの力で、毅然と粘り強く』による共通実践に徹し、互いの存在を大切にしようの正義の風を醸成する。	3.2	生徒アンケートでの「先生方は話をよく聞いてくれた」は98%(前年同期比+1%)、「礼儀やマナーをきちんと指導してくれた」は98%(前年同期比+1%)と共通実践の成果が見て取れる。 保護者アンケートでの「ルールやマナーを正しく指導してくれる」は98%(前年同期比+4%)、「間違った行動をきちんと指導してくれる」は96%(前年同期比+4%)と向上している。	⇒確固たる取組となるよう継続する。
	学校行事、学級・生徒会・部活動等の様々な活動において、『標し→任せ→見守り→認める』ことを基盤とした意図的な関わりに努め、自主・自律の力を高める。	2.9	生徒アンケートでの「ものごとを最後までやり遂げてうれしかった」は96%(前年同期比-1%)、「先生方は自分たちに活動を任せてくれた」は98%(前年同期比+6%)となっている。 学校行事が中止・縮減となる中、今できることに目を向けさせ、生徒による主体的な活動を導き出すことを意図してきた関わり成果として受け止めたい。	⇒集団活動の制限が引き続き求められる中、今できることに目を向けさせながら、生徒とともに新しい学校文化を創造していこうとする関わりをより意識する。
	生徒一人一人の頑張りや集団としての成長に『ポジティブ・フォーカス』し、勇気づけのメッセージを注ぎ続け、自己肯定感を高める。	3.0	生徒アンケートでの「先生方は自分たちのよいところや頑張りを認め、励ましてくれた」は98%(前年同期比+1%)で、その内訳で「そう思う」の回答割合は昨年同年から6%向上している。 また、「自分にはよいところがあると思う」は81%(前年同期比+5%)ではあるが、その内訳で「そう思う」の回答割合は昨年同年から6%低下している。	⇒日頃の何気ない学校生活の中で、小さな自己実現を繰り返し味わわせていくことを大切に言葉かけや関わりをより意識する。
地域とともにある学校づくり	学校運営協議会において、学校運営のビジョンや課題等を共有し、地域の人的・物的資源等の支援を得ながら、課題解決や目標達成に向けた協働を促進する。	3.0	年度当初に第1回学校運営協議会を開催し、学校運営方針の承認を得るとともに、感染症防止策の取組についてもご理解いただいた。 学校行事等の中止・縮減により、教育活動や生徒の様子に関する意見や助言をいただく機会を設けることができなかった。	⇒本校や地域の現状、及び感染症の状況に応じた無理のない運営に努める。 ⇒10月に第2回学校運営協議会を、2月に第3回学校運営協議会を実施する。
	組織的・継続的な学校評価に取り組み、教育活動の不断の検証・改善に努める。	3.0	コロナ禍によって、教育活動に様々な制限が求められる中、学校全体での感染防止対策の徹底と日常化を図りつつ、社会情勢に応じた対策を適宜講じながら、教育活動の充実に向けてきた。 引き続き、厳しい現実が続くものと想定・覚悟しての取組が必要である。	⇒ウイズコロナ(リスクはゼロにならない)を受け入れつつ、可能な限りのリスク低減の対策を講じて、健やかな学びの機会を保障する観点から、教育活動の改善・創造に努める。
	様々な媒体を通して、教育活動のねらいや様子、生徒の成長等を積極的に情報発信し、保護者や地域住民等に本校教育に対する理解促進を図る。	3.2	校長通信や学年通信等による情報発信の充実を目指すとともに、コロナ禍の影響による学校行事の変更や学校対応等に関する内容を丁寧に知らせることに注力してきた。 保護者アンケートでの「教育方針をわかりやすく伝えている」は97%(前年同期比+3%)、「通信等で保護者に十分な情報提供をしている」は98%(前年同期比+4%)と向上している。	⇒コロナ禍の中、厳しい現実を受け止め、前向きに頑張っている生徒の様子等をポジティブ・フォーカスした情報発信に努める。
教職にときめく職員集団づくり	過去-現在-未来をしっかり見据え、今の教育を創造する姿勢を忘れず、自己・相互研鑽に励む。	3.0	教職員それぞれに、「ときめき」と「やすらぎ」のキーワードを意識した教育活動の工夫が見られ、学校づくりのスローガンの具現化が進められている。 コロナ禍の影響により校外研修等の機会が削減されている中、日常的教育指導の充実に向けて力を注いできた。	⇒確固たる取組となるよう継続する。
	目の前の事実と誠実に向き合い、保護者とともに悩み、見守り、喜び合いながら、生徒の成長をいっしょになって支え、導く。	3.2	毎日の生活記録の確認やふれあい活動を通して、生徒の心情や環境の変化等の迅速な把握に努めてきた。配慮を要する生徒へは、保護者の立場を考慮した対応の方針を定め、組織としての対応にあたってきた。 保護者アンケートでの「学校は保護者や地域の願いに応じている」は93%(前年同期比+3%)と向上している。	⇒コロナ禍の中、生徒を取り巻く環境には、いつも以上に厳しい現実があると受け止め、引き続き、生徒の心情や環境の変化等の迅速な把握に努める。
	自他の健康に留意し、時間は有限との意識をもって、元気に職務に精励する。	2.9	出勤時に退勤時間を自己申告するとともに、一月毎に全職員の勤務時間外の在校時間を個別に周知し、勤務時間を意識した取組を進めている。 学校再開後は、週2コマの授業増や部活動指導、成績処理等が重なり、退勤時刻が遅くなる状況が続いた。	⇒勤務時間を意識して、時間を有効活用しながら業務に精励する気運を醸成する。 ⇒教育課程の進捗状況を踏まえ、週時程を可能なタイミングで通常に戻す。

※ 生徒アンケート(学習アンケート、心の交流アンケート)及び保護者アンケートは、4段階評価の割合を示したものである。

※ 生徒による授業評価は、4段階評価の全教員の平均を示したものである。